

令和6年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1475600621	事業の開始年月日	平成17年8月1日
		指定年月日	平成17年8月1日
法人名	株式会社ソーケイ		
事業所名	グループホーム百合ヶ丘		
所在地	(215-0011) 神奈川県川崎市麻生区百合丘3-27-2		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和7年3月3日	評価結果 市町村受理日	令和8年1月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの生活を大切にし、自立を促し、家庭的な場所を提供しています。駅からも徒歩圏内で閑静な住宅街の中にあり、施設前には四季を感じられる公園があり、散歩に行ったり地域の方と交流をしたりしています。毎月第3火曜日の13時30分から15時30分までカフェを開催し、地域の方々との交流をもっています。 また、絵手紙ボランティア、手工芸ボランティア、音楽療法などレクリエーションも充実しています。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町2-3 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和7年3月17日	評価機関 評価決定日	令和7年6月11日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】 当業所は小田急線百合ヶ丘駅から徒歩約8分の住宅街に立地する木造2階建て2ユニットのグループホームである。正面に公園があり、毎日散歩に出かけている。「穏やかで家庭的な場所を提供する」という理念のもと、立地や建物、部屋の造りにも工夫を凝らして建設された。建物中央に中庭やテラスがあり、利用者が皆でひとつのテーブルを囲んで食事をするダイニングとは別に、大型のソファやテーブル、椅子を配置したリビングがある。各所に絵画が飾られ、屋内の内窓には障子を用い、居室毎に設えが異なるなど、一般家庭のような趣である。平成29年7月から運営法人は株式譲渡により、多様な事業を展開するロハスミッション株式会社のグループ会社となっている。優良介護事業所として令和4年に「かながわ認証」を受けている。 【日常的な地域との様々な交流】 地域包括支援センターと共催の認知症カフェや近隣の保育園児の来訪は、コロナ禍後も感染予防に配慮して休止しているものの、中学生の職業体験や認知症サポーターでもあるボランティアの受入れ、地域の行事への参加は再開した。小学校からの依頼を受けて「子ども110番の家」も再開している。ボランティアと絵手紙やボッチャ、紙芝居を楽しんだり、職業体験で来訪した中学生と一緒におやつ作りや散歩をしている。公園で行われる防災イベントや祭りに、参加可能な利用者が職員と出かけている。散歩の際には近隣の方とあいさつを交わし、公園に来ている保育園児と交流したり、事業所内に保育園児の絵を飾るなど、日常生活の中に地域との様々な交流がある。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム百合ヶ丘
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員同士が理念を共有し、家庭的な場所を提供できるように努めている。	開所時に運営法人の社長が定めた「穏やかで家庭的な場所を提供します。人と人との出会いを大切にします。心と知恵でサービスを提供します。」を事業所の理念として掲げ、玄関の目につきやすい場所に掲示している。建築する時点から立地や部屋の造り等に配慮し、コロナ禍でも感染防止に注力しながら家族との面会を継続した。職員には入職時に説明するほか、毎月の職員会議等で折に触れ理念に沿った対応について確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	手工芸ボランティア、幼稚園児の慰問、認知症カフェ等地域の方々と交流を持ったがコロナ終息後も再開は出来ていない。今年より絵手紙ボランティアの方が紙芝居ボランティアとパラリンピックスポーツのボッチャをボランティアで毎月来ていただけるようになった。町内会の公園の掃除、中学生の職業体験（西生田。長沢）、子ども110番の家は再開し、交流を持っている。	「百合丘三丁目町会」に加入し、町内会だより等、回覧版が届く。総会や「一斉清掃美化デイ」に管理者が出席し、公園で実施される祭りや防災イベントには職員や参加可能な利用者が参加している。地域の方に事業所の駐車場を貸すこともあり、散歩時には地域の方と挨拶を交わしたり、保育園児と交流することもある。麻生区の福祉まつりでは地域の医療・福祉事業者による認知症普及啓発の取組み（RUNTOMOあさお2024）に参加し、事業所の車にステッカーを貼ったり、シンボルカラーのオレンジ色の手作り作品を出品するなどの活動をした。紙芝居や絵手紙、ボッチャのボランティアや中学生の職業体験を受け入れている。「子ども110番の家」を再開し、公園に遊びに来た子どもにトイレを貸すこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	RUNTOMO + あさおに参加し、認知症の方の理解や周知に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や話 し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に 活かしている	運営推進会議で出たご家族や地 域の方からの要望などを踏まえ サービスの向上に役立てていけ るよう努めている。	2か月ごとにボランティアの活動日に合わせ、対 面で開催し、利用者、家族、ボランティア、系 列事業所の職員、成年後見人（市社協の職 員）、地域包括支援センター職員、管理者等が 参加している。運営状況やイベント等の活動報 告、大規模災害への備え、外部評価の結果等を 伝え、意見・情報交換をしている。家族の要望 等については、その都度、検討を行っている。 出席者からの情報で災害時の地域の指定避難所 の変更があったことを知った。ボランティアの 方からは他事業所での取り組みを聞いている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事 業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に 伝えながら、協力関係を築くように取り組んで いる	あんしんセンターと区の職員と 生活保護の案件にて連携取っ ている。また地域包括支援セン ターとも随時入居の件などで連 携を取っている。	区の高齢・障害課介護認定担当窓口にて、介護保 険の認定更新や区分変更の申請用紙を提出代行 し、認定調査員が来所している。地域包括支援 センターとは居室の空き状況等について随時連 絡を取っている。生活保護受給者を受け入れて おり、麻生区あんしんセンター、麻生区役所保 護課とも連携し、職員が年1、2回来所し、情報 を共有している。行政主催のオンラインでの研 修案内が届き、職員が受講している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアをしている。利用者様の安全を守るためにやむを得ない場合にのみ家族、医師、後見人等と話し合い、同意を得てする場合もあるが極力そうならないようにしており今年是一件もない。	「身体拘束廃止に関する指針」が整備されている。運営規程及び重要事項説明書、契約書でも身体拘束をしない旨を明記している。常勤職員をメンバーとする「身体拘束廃止委員会」を2か月に1回、運営推進会議と同時に実施している。委員会には出られる職員が出席している。月1回の「職員全体会議」で委員会の内容を報告し、研修も行っている。何が身体拘束に当たるのかを確認し、言葉のかけ方やスピーチロック等について話し合っている。ベッド柵だけでなく、壁も含めて4点柵に当たる場合があること等についても注意を促している。欠席した職員には資料を配付し、議事録を回覧して周知している。入居したばかりで外出願望のある利用者には家族に頻回に来訪してもらったり、職員が傾聴したり、一緒に散歩に行くことで落ち着けるように配慮している。離床センサーを使用している利用者はいない。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを全職員が見れる場所に置き、他施設の事例などが出たときにはその件について話し合い虐待の防止に努めている。職員会議にて定期的に議題に挙げ学ぶ機会も設けている。	「高齢者虐待防止のための指針」が整備されている。運営規程にも虐待防止のための措置を明記している。「虐待防止委員会」を管理者、ケアマネジャー、職員1名をメンバーとして年2回開催している。虐待防止に関する研修を年2回実施し、職員は受講後にレポートを提出している。委員会のメンバーが運営法人本社の委員会にも参加し、事業所で伝達し、虐待に当たる行為等について注意喚起をしている。月1回の「職員全体会議」でも話し合いを行っている。欠席者には資料を配付し、職員専用玄関スペースに議事録を置いて回覧し、周知している。管理者は「研修・職員会議チェックシート」を用いて閲覧状況を確認している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて定期的に議題に挙げ学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時に説明を行っている。契約書の読み合わせをし、わからないところがあればその場で答え納得をいただいた上で契約して頂くようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や月一回出す手紙にて利用者様の状況を伝えている。ご家族様等よりご要望があれば職員で情報を共有しケアや運営に反映している。	来所時や電話があった時、ケアプラン作成時等に家族の意見・要望を聴いている。家族からリハビリパンツのサイズに関する意見を受け、他の利用者についてもオムツやパッドのサイズや機能、あて方について見直し、職員間で検討して、よりよい製品を見つけて導入した。家族会はないが運営推進会議参加後に家族同士で交流する場を設けることができないか検討している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者に月一回「提案、気づき」を職員が提出している。随時、管理者に伝える体制は出来ている。また年4回の全社会議、毎月の職員会議も実施し、そこに本社の方が参加されて意見を言う場がある。	月1回の「職員全体会議」、年4回の「全社会議」があり、職員は意見や提案を伝えることができる。管理者に随時、個別に伝える職員も多い。毎月、全職員が必ず運営法人代表者（会長）宛てに提案や気づきを書面に記し、管理者がまとめて提出する仕組みがある。職員の提案で、利用者の歯ブラシ等を個別の小型ラックを用いて衛生的に保管する方法を取り入れた事例がある。運営法人グループ全体のハラスメントに関する規程の整備や処遇改善につながったこともある。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得、新しい役割分担等についても反映している。職員環境、条件も話し合いで改善、考慮されている。	管理者がシフトを作成し、残業や休暇の取得状況を把握している。常勤職員については人事課を年1回実施している。管理者は必要に応じて随時面談を行っている。職員用の休憩室が整備されている。資格取得休暇があり、今年度は3名が介護福祉士実務者研修受講に活用した。所持資格に応じた手当が支給され、役割分担にも反映させている。管理者は話しやすい環境作りに配慮し、職員とのコミュニケーションを心掛けている。5年以上継続して就労している職員が6割以上おり、定着率が高い。開設時から在職している職員も数名いる。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の連絡があれば職員の状況を踏まえ研修を受ける機会を設けている。また、職員から研修を受けたい要望があればできる限り応えている。	「グループホーム百合ヶ丘 研修・訓練・会議計画」に基づいて、法定研修等を毎月実施している。入職時研修は運営法人本社のマニュアルに沿って実施している。OJTも研修資料の内容に沿って指導を行っている。入職者の経験や、非常勤職員の場合には出勤日数等により、2週間から3か月の研修期間を設定している。行政から案内がある研修等、外部研修は、なるべく多くの職員が受講できるように配慮している。介護福祉士実務者研修には3名が参加した。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	認知症サポーターの方のボランティアの方との紙芝居ボランティアとボッチャでの交流や、デイサービスのだんらの家新百合ヶ丘との交流を行い、意見交換をしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様等から今までの生活歴、状況等をアセスメントし、その人らしい生活が出来る様に努めている。特に生活歴は職員で把握し安心して過ごしていただけるような声掛けに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階で困っていること、不安なこと、要望等は聞き取りをしている。サービスの利用を開始する段階でも行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で話し合いをし、ご家族が気付いていないサービスがあれば提案している。訪問マッサージや訪問歯科、福祉用具の利用等。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理、掃除、食器拭き、洗濯物たたみ等の家庭的なことを職員と一緒にいき、提供するだけでなく共に生活するという環境を作るように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は家族の要望があれば時間外でも対応するようにしている。報告はして頂くが本人の好きな食べ物や生花なども自由に持ってきていただき、利用者様と家族が過ごしやすい環境を整えている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	この地域の方で可能な限りなじみ場所があれば散歩などで行くようにしている。友人や知り合いの方も面会に来やすいように環境を整えている。手紙や電話の支援も行っている。以前に加入していた町内会での催し物もご家族様の協力もあり参加できている。	幼少期からの友人の来所がある方がいる。面談スペースの都合で予約制としているが滞在時間の制限はない。以前住んでいた地域の町内会の「歌の集い」に家族対応で参加を継続している方もいる。友人から絵手紙が届いた方には返事を書くことを勧めている。事業所で新聞を購読し、新聞を読む習慣のある方が入居後も継続して読めるようにしている。好きな乳酸飲料を飲み続けている方もいる。お盆の時期に居室の仏壇に飾る仏花を買って来たり、華道の師範の方に花を活けてもらうこともある。好みのお菓子を家族から預かって提供することもある。馴染みのデパートに職員と買い物に出かけたり、馴染みの美容院やカフェに家族と行く方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の状況を職員全員が把握し、情報を共有し良好な関係が保てるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があればできる限り支援をしている。また、退所先の施設などに対応に困っていることがないか電話し、退所先でも落ち着いて過ごしていただけるよう支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の情報を共有し意向の把握に努めている。意思を伝えるのが困難な方は家族と相談し意向に沿えるよう努めている。	利用者の思いは日ごろの表情や会話、行動からくみ取るようにしている。入居前に家族からこれまでの生活歴等を聞いて、それを基にコミュニケーションをとっている。話すことが難しい方については、出身地の名物の話をしたり、元気だったころの情報を共有し、好みの食べ物を提供する等している。家族から好きだった俳優・歌等を聞き取り、テレビやDVD、配信動画等で見てもらうこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人から伺ったり、ご家族等から情報を頂いたりして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の情報を職員で共有し、ご家族様、担当ケアマネージャ、担当医等から情報を頂き、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族様等から要望を聞き介護計画に反映している。職員間でもサービス担当者会議等を通じ意見を交換し、利用者様のニーズにあった介護計画になるようにしている。	入居後は長期目標を1年、短期目標を6か月と定め介護計画を見直している。介護保険要介護認定の更新時や体調変化による入院時のほか、随時アセスメントをしている。介護計画は計画作成担当者が、家族、医師、看護師、歯科医、薬剤師、訪問マッサージ師、職員から、口腔ケア時の注意点や歩行訓練の増回、服薬や入浴の時間など、助言や意見を取り入れて作成し、職員間で共有している。居室担当職員が中心となってモニタリングを行い、利用者の状況は「百合丘便り」として詳細にまとめ、家族に報告している。ケアプランチェックリストがあり職員は介護計画を常に意識して支援している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録が電子入力にの為、情報が全体に素早く発信でき、共有しやすい環境が整っている。そういった面を実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医師、訪問看護、訪問マッサージ、訪問歯科、訪問理容などと相談し柔軟に対応するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、民生委員、自治会の方などから地域資源の情報を収集し活用するよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば以前からかかっていた病院、医師に診て頂けるようにしている。訪問看護、訪問歯科、訪問マッサージとも連携している。	従来の内科のかかりつけ医の訪問診療を受診している方が2名いる。その他の利用者は、隔週で4箇所の協力医療機関の訪問診療を受診している。いずれのクリニックも24時間対応が可能な体制となっている。一時的に家族対応で整形外科、精神科に通院していた方々もいた。受診後は家族から診察内容を聞き、タブレットの「申し送り」に入力し全職員で共有している。訪問看護師は週1回来所し、健康管理や医師の指示による点滴の処置を行っている。歯科衛生士は週1回、歯科医師は月に1回来所し、口腔ケアや必要に応じて治療を行っている。3か月に1回健診があり、希望者10名程が訪問歯科を受診している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護にて利用者様の情報を共有し適切なケアに繋がるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	フェースシートとアセスメント表、看護サマリーを活用し、病院関係者と情報の共有をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合の意思確認書」をご家族様と確認している。状況が変われば再度話し合いをするための場を設けている。	「重度化した場合の意思確認書」を入居時に取り交わし、事業所でできること、できないことを説明している。看取り対応となった際には医師から家族に説明を行い、再度書面を取り交わしている。医師や家族と常に話し合って対応を決めている。今年度の看取りの実績は2名である。看取りの研修はその都度行っている。職員会議で看取りの定義から説明し、個別の対応について資料を渡して説明している。看取り後は、管理者、経験者を中心に、振り返りをしている。食事の提供方法等について検討した事例がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてはマニュアルを作り全職員が見れる場所に置いてある。訪問看護は24時間対応となっている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は定期的に6月と12月に行っている。1年に1回は夜間対応の訓練も行っている。2階の休憩室に避難地図や浸水域を掲示し把握に努めている。地域との協力体制を築いていけるよう町内会の集まり、認知症カフェ、運営推進会議等で話し合っている。	消防訓練を年2回、うち1回は夜間を想定して実施している。「自主防災組織防災計画」、「入居者様緊急時対応表」、緊急連絡網等、災害時のマニュアルが整備されBCP（事業継続計画）も作成している。米はローリングストックとし、水やレトルト食品、缶詰め等は職員分を含め約3日分の用意がある。防災用品、衛生用品、感染対策用品等を屋根裏や地下室に分散して保管している。写真付きの「防災用品、備蓄管理表」を各ユニットに掲示し、保管物資の内容や設置場所が一目でわかる工夫をしている。「川崎市ゆれやすさマップ」を見て地盤が強い地域であることを確認し、管理者が情報を集めて「災害時生活用水供給井戸一覧」を作成している。地域の避難訓練に管理者、職員、利用者が参加している。日本認知症グループホーム協会の依頼に応え能登半島地震の際には職員を派遣した。	地域の方に事業所の防災訓練に参加してもらうなどしながら、非常時における地域との協力体制についての話し合いをさらに進め、具体的な内容を取り決めておくことを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや対応については常に職員同士で意見交換を行い改善に努めている。接遇の研修は職員会議にて定期的に行っている。個人情報は鍵のかかるキャビネットで保管し個人の書類に関してもカーテンで仕切っている。	コンプライアンス研修は年1回、接遇研修は職員会議及び個別指導により随時、行っている。管理者は「職員の対応を家族が見たらどう思うか」を常に意識するように指導している。職員間の申し送りでは利用者の名前を出さずに部屋番号で伝え、排せつについては「ハルン、コート」等、あえて医学用語で話している。利用者をあだ名で呼ぶなど、不適切な声かけがあった場合には、職員同士でも注意し合っている。個人情報を含む書類は事務室のキャビネットで施錠管理し、日常的に使用する書類置き場はカーテンで仕切るなどして、利用者の目に触れることはない。パソコンは管理者がパスワードを設定して管理している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様から要望がないか随時聞き取りを行っているまた、利用者様から要望があれば支援できるように努めている。決定はご本人様の意思を尊重している。誕生日にはご本人様の食べたいものを提供している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクに参加したくない方などに無理強いしたりせず、その人らしい生活が営めるよう支援している。買い物に付き添う、体操や歌のレクに参加する、見たいテレビを見る等。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたり、マニキュアを塗ったり、アクセサリーを付ける、外出するときの服装を一緒に考える、訪問理容を利用して頂く等支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食品配送業者に朝、昼、夕頼んでいるが、季節の果物をつけたり、行事の時は行事食に変更（お正月にお節、節分に恵方巻、クリスマスにケーキやピザ等）して季節感を大事にしている。誕生日にはその方の好きなものを聞き取り提供するようにしている。	利用者はオープンキッチンで職員が調理をする様子を見ることができる。居室で食事をする方もいるが、皆で大きなテーブルを囲んで食事をしている。出来る方、得意な方は食器洗い、食器拭き、テーブル拭きをしている。配食業者の食材を利用し、ご飯と汁物、副食1品は職員が調理し、その他は湯煎して提供している。クッションやひじ付き椅子で安定した姿勢を保持し、個々に合わせた食形態、食具で提供し、必要な方の隣に職員が座って介助している。食事中はテレビを消し、音楽を流している。誕生日には、その方の好きなものを取り寄せ、正月やクリスマスなどの行事では、テイクアウトのお寿司やステーキ、ピザなどを用意し、提供している。食事では季節感を大切にしている。おやつ作りを楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が情報を共有しその人にあった量、形状、味の濃い薄い等を調整し支援している。お粥にする、刻み食、ミキサー食、とろみをつける等を行っている。また、食事の摂取が減ってきている方には医師と相談しエンシュアなどの栄養補助を検討して頂くようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後に口腔ケアを行っている。また、個別に訪問歯科による口腔ケアを実施し清潔保持に努めている。また月に一回訪問歯科にて全入居者様の口腔ケア指導を行い、問題等があったときは治療や訪問口腔ケアを開始する等連携を取っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の状況に応じ対応し支援している。夜間トイレまで間に合わない方は居室にポータブルトイレを置いて対応している。	半数の方が介助を必要とする。布パンツの方が2名、夜間のみオムツを使用している方が3名いる。リハビリパンツ、パッド等は費用負担や清潔保持、快適な睡眠等を考慮し、一人ひとりに適切な製品を選んでいる。家族の意見を受け、全員についてオムツやパッドのサイズや当て方、商品の選択を見直した。自立支援のため、なるべくトイレで排泄できるよう、排せつチェック表で個々の排泄パターンを把握し、その方に合わせてさりげなく小声でトイレに誘う声掛けをしている。脱衣所にも家具調のポータブルトイレを置いている。同性介助の希望にはなるべく沿うよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様の状況を職員が把握し情報を医師、訪問看護と共有し、生活環境や服薬内容を見直している。10時のおやつはヨーグルトを提供している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の意向で午前中に入りたい、一番最後にゆっくり入りたい等意見を聞き対応している。また冬場はヒートショック対策で脱衣所と浴室は暖房をつけている。	3日に1回の入浴を基本としているが、希望があれば増回できる。個々の入浴日を入浴チェック表で把握している。体調不良や気の進まない時は、曜日や時間を変えている。浴室・脱衣所には冷暖房機器を設置し、ヒートショックや熱中症に留意している。皮膚のトラブルに配慮して入浴剤は使用していない。ゆず湯・菖蒲湯を楽しんでいる。同性介助の希望にはできる限り対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状況、要望を職員が把握し、情報を共有している。傾眠されている方には日中でも入床していただいたり、夜間暗くて怖い方には電気を眠るまで点けておいたり等している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員で情報を共有し理解に努めている。薬に変更があった時には必ず効能やどういう経緯で処方されたのか等説明し注意するようにしており、変化を感じたら必ず医師、訪問看護に報告している。2024年2がつより療養管理指導をかもめ薬局におこなって頂き、服薬の安全性を高めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の要望を職員が把握し、情報を共有して支援出来る様努めている。家事の手伝い、塗り絵、カラオケ、体操等のレクを行っている。コロナ禍で中止だが、お話が好きな方は認知症カフェで地域の方々と触れ合って頂き楽しんで頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の要望を職員が把握し、情報を共有し支援出来る様努めている。要望が出たらご家族様にお伝えし、対応して頂いている。また職員付き添いで買い物に行かれることもある。	立地を生かし向かいの公園等へ散歩に行っている。桜やイチョウの木があり季節の移ろいを楽しめる。職員の付き添いで買い物に行く方もいる。毎日、各階で1名は外出するようにしている。介護度の高い方も車いすを利用して出かけている。家族対応で、法事や墓参り、買い物や外食に出かける方がいる。また正月に家族と一緒に外出している方もいる。職員が同行した通院の帰路の時間を活用して、短時間のドライブを楽しむこともある。徒歩での外出が難しくなり、出かけたがらない方も増えているため、ドライブレクを計画中である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室にて保管することが難しい方は鍵のかかるキャビネットにて職員が預かり、使用したときに利用者様にお渡しするようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を取り次いだり、かけたい希望があればできる限り浴えるように支援している。手紙もポストに行くのが難しい方は職員が出している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り居室に名札をつけない、食器をプラスチックのものにしない、季節に合った飾りつけ等、家庭的な環境のもとで生活感が損なわれないようにしている。入居時の短い期間名前等を掲示することもの時々に応じて対応している。	エアコン、空気清浄機、換気扇等により、温湿度に配慮している。オープンキッチンから職員は利用者の様子を見ることができる。食事をするダイニングと別にリビングがあり、ソファやテーブル、クッションが置かれ、利用者は気に入った場所で自由にくつろぐことができる。1階にはピアノが置かれ、来所した家族の弾き語りを皆で聴くこともある。夏には中庭で手持ち花火を見て楽しむこともある。絵画の額や相撲の番付表、写真や習字の作品を飾り、家庭と変わらない雰囲気である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全員が集まるリビングだけでなく、違うフロアにソファやテーブルを置き一人で過ごしたり、家族や利用者様同士で話す場を設けている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様になじみのあるものを持ってきていただき過ごしやすい環境を整えている。居室にご自身で撮影した写真を飾ったり、ご自身で描いた絵を置いて頂いたりしている。	入居して間もない方以外は表札を付けてない。エアコン、換気扇、照明器具、クローゼット、飾り棚、ベッドが備え付けである。居室ごとに部屋の造りが異なる。障子が多く用いられ和風の落ち着いた雰囲気がある。仏壇や使い慣れたチェスト、タンス、椅子や机を持ち込み、家族の写真や人形、自分の作品を思い思いに飾っている。神仏のお札や資格証書を貼っている方もいる。利用者はテレビを見たり、新聞を読んだりして過ごしている。居室担当職員が窓掃除、居室の整理、シーツ交換等を行っている。以前は和室もあったが、今は全室フローリング仕様になっている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名札をつけず、トイレも明示はしないようにしている。 わからないことがあれば職員が支援しているができるだけご本人の力で居室とフロアの行き来、トイレに行く等が出来るように努めている。		

事業所名	グループホーム百合ヶ丘
ユニット名	2階

Ⅴ アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員同士が理念を共有し、家庭的な場所を提供できるように努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	手工芸ボランティア、幼稚園児の慰問、認知症カフェ等地域の方々と交流を持ったがコロナ終息後も再開は出来ていない。今年より絵手紙ボランティアの方が紙芝居ボランティアとパラリンピックスポーツのボッチャをボランティアで毎月来ていただけるようになった。町内会の公園の掃除、中学生の職業体験（西生田。長沢）、子ども110番の家は再開し、交流を持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	RUNTOMO + あさおに参加し、認知症の方の理解や周知に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で出たご家族や地域の方からの要望などを踏まえサービスの向上に役立てていけるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	あんしんセンターと区の職員と生活保護の案件にて連携取っている。また地域包括支援センターとも随時入居の件などで連携を取っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアをしている。利用者様の安全を守るためにやむを得ない場合にのみ家族、医師、後見人等と話し合い、同意を得てする場合もあるが極力そうならないようにしており今年是一件もない。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを全職員が見れる場所に置き、他施設の事例などが出たときにはその件について話し合い虐待の防止に努めている。職員会議にて定期的に議題に挙げ学ぶ機会も設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議にて定期的に議題に挙げ学ぶ機会を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前、入居時に説明を行っている。契約書の読み合わせをし、わからないところがあればその場で答え納得をいただいた上で契約して頂くようにしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や月一回出す手紙にて利用者様の状況を伝えている。ご家族様等よりご要望があれば職員で情報を共有しケアや運営に反映している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者に月一回「提案、気づき」を職員が提出している。随時、管理者に伝える体制は出来ている。また年4回の全社会議、毎月の職員会議も実施し、そこに本社の方が参加されて意見を言う場がある。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得、新しい役割分担等についても反映している。職員環境、条件も話し合いで改善、考慮されている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の連絡があれば職員の状況を踏まえ研修を受ける機会を設けている。また、職員から研修を受けたい要望があればできる限り応えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	認知症サポーターの方のボランティアの方との紙芝居ボランティアとボッチャでの交流や、デイサービスのだんらんの家新百合ヶ丘との交流を行い、意見交換をしている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様、ご家族様等から今までの生活歴、状況等をアセスメントし、その人らしい生活が出来る様に努めている。特に生活歴は職員で把握し安心して過ごしていただけるような声掛けに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学の段階で困っていること、不安なこと、要望等は聞き取りをしている。サービスの利用を開始する段階でも行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で話し合いをし、ご家族が気付いていないサービスがあれば提案している。訪問マッサージや訪問歯科、福祉用具の利用等。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理、掃除、食器拭き、洗濯物たたみ等の家庭的なことを職員と一緒にし、提供するだけでなく共に生活するという環境を作るように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会は家族の要望があれば時間外でも対応するようにしている。報告はして頂くが本人の好きな食べ物や生花なども自由に持ってきていただき、利用者様と家族が過ごしやすい環境を整えている。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	この地域の方で可能な限りなじみ場所があれば散歩などで行くようにしている。友人や知り合いの方も面会に来やすいように環境を整えている。手紙や電話の支援も行っている。以前に加入していた町内会での催し物もご家族様の協力もあり参加できている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の状況を職員全員が把握し、情報を共有し良好な関係が保てるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があればできる限り支援をしている。また、退所先の施設などに対応に困っていることがないか電話し、退所先でも落ち着いて過ごしていただけるよう支援している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者様の情報を共有し意向の把握に努めている。意思を伝えるのが困難な方は家族と相談し意向に沿えるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様本人から伺ったり、ご家族等から情報を頂いたりして把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の情報を職員で共有し、ご家族様、担当ケアマネージャ、担当医等から情報を頂き、現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族様等から要望を聞き介護計画に反映している。職員間でもサービス担当者会議等を通じ意見を交換し、利用者様のニーズにあった介護計画になるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録が電子入力にの為、情報が全体に素早く発信でき、共有しやすい環境が整っている。そういった面を実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医師、訪問看護、訪問マッサージ、訪問歯科、訪問理容などと相談し柔軟に対応するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、民生委員、自治会の方などから地域資源の情報を収集し活用するよう努めている。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があれば以前からかかっていた病院、医師に診て頂けるようにしている。訪問看護、訪問歯科、訪問マッサージとも連携している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護にて利用者様の情報を共有し適切なケアに繋がるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	フェースシートとアセスメント表、看護サマリーを活用し、病院関係者と情報の共有をするようにしている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合の意思確認書」をご家族様と確認している。状況が変われば再度話し合いをするための場を設けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてはマニュアルを作り全職員が見れる場所に置いてある。訪問看護は24時間対応となっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練は定期的に6月と12月に行っている。1年に1回は夜間対応の訓練も行っている。2階の休憩室に避難地図や浸水域を掲示し把握に努めている。地域との協力体制を築いていけるよう町内会の集まり、認知症カフェ、運営推進会議等で話し合っている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや対応については常に職員同士で意見交換を行い改善に努めている。接遇の研修は職員会議にて定期的に行っている。個人情報鍵のかかるキャビネットで保管し個人の書類に関してもカーテンで仕切っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様から要望がないか随時聞き取りを行っているまた、利用者様から要望があれば支援できるように努めている。決定はご本人様の意思を尊重している。誕生日にはご本人様の食べたいものを提供している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクに参加したくない方などに無理強いしたりせず、その人らしい生活が営めるよう支援している。買い物に付き添う、体操や歌のレクに参加する、見たいテレビを見る等。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしたり、マニキュアを塗ったり、アクセサリーを付ける、外出するときの服装を一緒に考える、訪問理容を利用して頂く等支援している。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食品配送業者に朝、昼、夕頼んでいるが、季節の果物をつけたり、行事の時は行事食に変更（お正月にお節、節分に恵方巻、クリスマスにケーキやピザ等）して季節感を大事にしている。誕生日にはその方の好きなものを聞き取り提供するようにしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が情報を共有しその人にあった量、形状、味の濃い薄い等を調整し支援している。お粥にする、刻み食、ミキサー食、とろみをつける等を行っている。また、食事の摂取が減ってきている方には医師と相談しエンシュアなどの栄養補助を検討して頂くようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	夕食後に口腔ケアを行っている。また、個別に訪問歯科による口腔ケアを実施し清潔保持に努めている。また月に一回訪問歯科にて全入居者様の口腔ケア指導を行い、問題等があったときは治療や訪問口腔ケアを開始する等連携を取っている。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者様の状況に応じ対応し支援している。夜間トイレまで間に合わない方は居室にポータブルトイレを置いて対応している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者様の状況を職員が把握し情報を医師、訪問看護と共有し、生活環境や服薬内容を見直している。10時のおやつはヨーグルトを提供している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者様の意向で午前中に入りたい、一番最後にゆっくり入りたい等意見を聞き対応している。また冬場はヒートショック対策で脱衣所と浴室は暖房をつけている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状況、要望を職員が把握し、情報を共有している。傾眠されている方には日中でも入床していただいたり、夜間暗くて怖い方には電気を眠るまで点けておいたり等している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員で情報を共有し理解に努めている。薬に変更があった時には必ず効能やどういう経緯で処方されたのか等説明し注意するようにしており、変化を感じたら必ず医師、訪問看護に報告している。2024年2がつより療養管理指導をかもめ薬局におこなって頂き、服薬の安全性を高めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の要望を職員が把握し、情報を共有して支援出来る様努めている。家事の手伝い、塗り絵、カラオケ、体操等のレクを行っている。コロナ禍で中止だが、お話が好きな方は認知症カフェで地域の方々と触れ合って頂き楽しんで頂いている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の要望を職員が把握し、情報を共有し支援出来る様努めている。要望が出たらご家族様にお伝えし、対応して頂いている。また職員付き添いで買い物に行かれることもある。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	居室にて保管することが難しい方は鍵のかかるキャビネットにて職員が預かり、使用したいときに利用者様にお渡しするようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を取り次いだり、かけたい希望があればできる限り沿えるように支援している。手紙もポストに行くのが難しい方は職員が出している。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り居室に名札をつけない、食器をプラスチックのものにしない、季節に合った飾りつけ等、家庭的な環境のもとで生活感が損なわれないようにしている。入居時の短い期間名前等を掲示することもの時々に応じて対応している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全員が集まるリビングだけでなく、違うフロアにソファやテーブルを置き一人で過ごしたり、家族や利用者様同士で話す場を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様になじみのあるものを持ってきていただき過ごしやすい環境を整えている。居室にご自身で撮影した写真を飾ったり、ご自身で描いた絵を置いて頂いたりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名札をつけず、トイレも明示はしないようにしている。わからないことがあれば職員が支援しているができるだけご本人の力で居室とフロアの行き来、トイレに行く等が出来るように努めている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム百合ヶ丘

作成日 令和7年4月26日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	16	・災害時に避難する際、近所の方々に協力して頂く体制を作る。	・火災や地震などの災害時、前にある公園に避難した際に見守りして頂けるようにする。	・町内会の集まりなどに参加し、自治会長や以前からお世話になっている副会長の方協力して頂けるようお願いをする。 →4月26日町内会の総会にて時間を頂き、協力をお願いをいたしました。副会長の安國様より協力をして頂けるよう呼び掛けて頂き、町内会でも協力をして頂けることとなる。	1年
2					
3					
4					